

ふれあいバス実証運行における事業評価ガイドライン(案)

1. 事業評価ガイドラインの目的と位置付け

(1) 目的

「ふれあいバスの実証運行」は、印西市地域公共交通総合連携計画（平成 23 年 3 月）（以下、連携計画という）で定めた事業で、平成 23 年度から平成 25 年まで適宜、運行内容を見直ししながら実証運行を実施し、本格運行へ移行する計画である。

本事業評価ガイドラインは、「ふれあいバス」の本格運行に向けた見直しを行うにあたり、予め評価する方法を規定することにより、各種評価指標の収集や事業評価を効果的・効率的に進めるために取りまとめるものである。

(2) 位置付け

事業評価ガイドラインは、限りある予算の中で、よりよい運行内容を目指し PDCA サイクルに基づき、本格運行までに改善すべき課題の抽出を行う手引きと位置付ける。

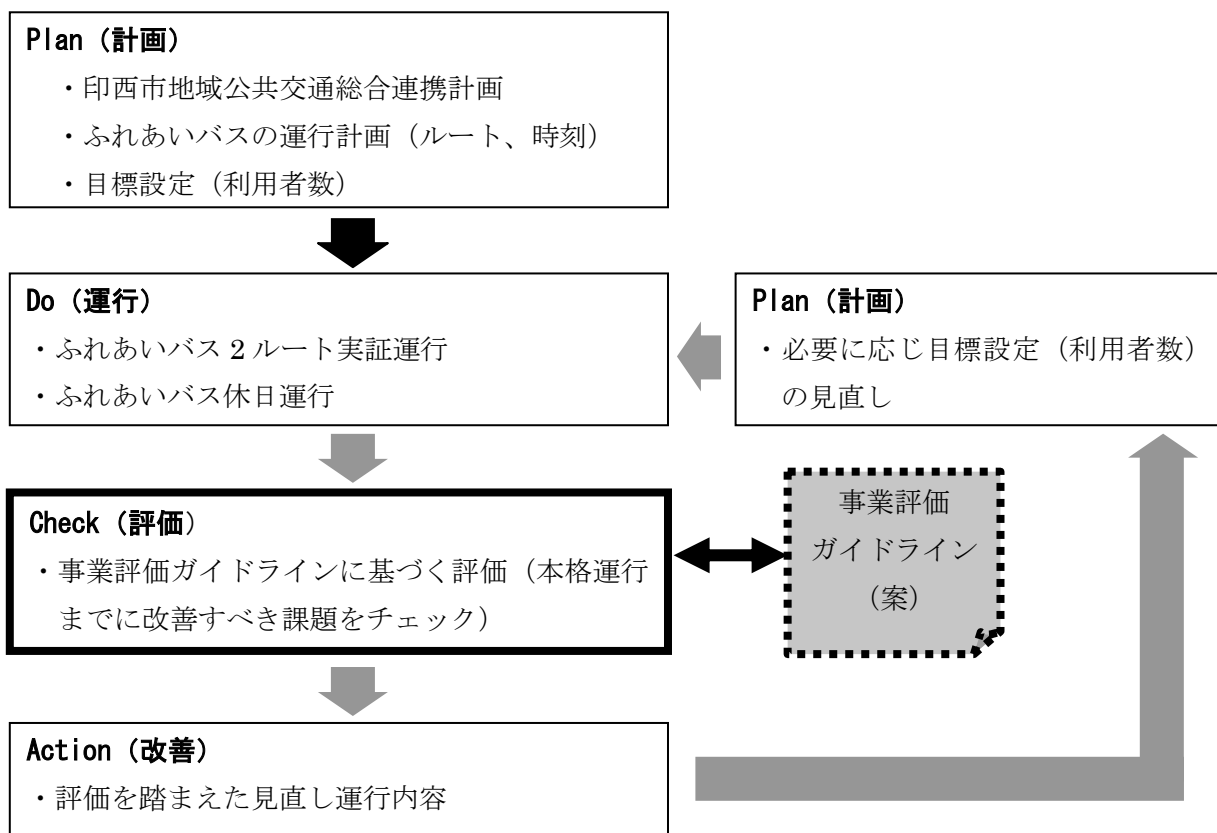


図 1 PDCA サイクルによる評価の流れ

(2) 評価指標と評価方法

	分類	主な指標	計測方法	評価方法	目標値(案)※	改善イメージ等	備考
1	事業目的の達成状況	交通不便地域のカバー率	バス停の圏域図(半径1Km)を地図上に作成	バス停の圏域図を作成し、交通不便地域のカバー率・状況を確認	・1Km圏域で90%	・バス停位置、ルートの見直し	事業目的
2	利用状況	日利用者数	運賃収入等の情報による調査	路線別、曜日別等の利用状況を確認	・滝野ルート(40人/日) ・布佐ルート(60人/日)	・広報 ・運行内容の見直し	
3		バス停別利用者数	運賃収入等の情報による調査、又は乗降調査	バス停別の利用状況(曜日別)を確認	・全バス停の利用実績	・広報 ・バス停の位置やルートの見直し	
4	利用者満足度	満足度	車内アンケート調査等	アンケート調査等により満足度・改善要望を確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ ルート、本数、時間帯、本数等のサービス ・ 定時性、快適性、運転手の対応等 ・ 今後の利用意向 	・満足度50%以上	・ルート、時間帯等のサービス内容の見直し ・運転手マナー改善	
5	費用面	収支	事業経費に対する運賃収入の割合	事業の補助率を確認	・10%以上	・事業経費の見直し	

※ 次年度以降の目標値は、対策状況等に応じ、前年比プラスとなるよう再設定する。